

Addin for Excel 95-2007

拡張関数(xlXFuncs.xll)

ガイド&リファレンス

ふうみん
Ver0.8.1 2010/10/11

はじめに

この文書は、「Addin for Excel 95-2007」(Free Edition / Basic Edition / Professional Edition / Enterprise Edition)に含まれる xlXFuncx.xll を使用する際のガイドと追加される関数についてのリファレンスです。

やむを得ず仕様を変更する場合がありますので、リリースバージョンに対応するガイド & リファレンスをご利用ください。

この文書は、画面の隅に表示したまま使用できるよう、はがきサイズで作成されています。

印刷の際には用紙サイズにご注意ください。

A4 用紙の場合は 1 枚当たり 4 ページとして印刷することをおすすめ致します。

目次

動作環境	1
ライセンス	3
アドイン登録・削除方法	4
Excel 95 の場合	5
Excel 2003 の場合	6
Excel 2007 の場合	7
関数リファレンス	8
Free Edition で提供する関数	11
FILE2MD5	12
MBSTR2MD5	14
MBSTR2MD5UTF8	16
WCSTR2MD5	18
Basic Edition で提供する関数	20
FILE2MD2	22
MBSTR2MD2	24
MBSTR2MD2UTF8	26
WCSTR2MD2	28
FILE2MD4	30
MBSTR2MD4	32
MBSTR2MD4UTF8	34
WCSTR2MD4	36
FILE2SHA1	38
MBSTR2SHA1	40
MBSTR2SHA1UTF8	42
WCSTR2SHA1	44

FILE2SHA224	46
MBSTR2SHA224	48
MBSTR2SHA224UTF8	50
WCSTR2SHA224	52
FILE2SHA256	54
MBSTR2SHA256	56
MBSTR2SHA256UTF8	58
WCSTR2SHA256	60
FILE2SHA384	62
MBSTR2SHA384	64
MBSTR2SHA384UTF8	66
WCSTR2SHA384	68
FILE2SHA512	70
MBSTR2SHA512	72
MBSTR2SHA512UTF8	74
WCSTR2SHA512	76
HLADD	78
HLADDC	80
HLSUB	81
HLSUBC	83
HLMLT	84
HLMLTC	86
HLDIV	87
HLDIVC	89
HLSQRT	90
HLSQRTC	92
HLCOMP	94
HLABS	96
HLABSC	98

HLPI.....	99
HLPIC	100
HLVALUE	101
Professional Edition および Enterprise Edition で提供する関数.....	102
利用者定義名	103
その他	105

動作環境

xlXFuncx.xll は以下の OS(サービスパックや Edition, R2 等を含む)と Excel の組み合わせでご利用できます。

Windows XP

Windows Vista

Windows 7

Windows 2003

Windows 2008

Excel 95 ～ 2003

Excel 2007 ～ 2010

※ただし、Excel はすべて 32bit 版です。

上記以外の OS と Excel の組み合わせは保障範囲外となります。

すべて日本語版のみの対応となります。

特に、Excel 95 ～ 2003 までをご利用の場合、OS の言語設定で日本語を選択する必要があります。

Addin for Excel 95-2007 の複数バージョンおよび複数 Edition の同時利用はできません。

Professional Edition および Enterprise Edition では、MSXML を必要とします。

MSXML は OS や Office 等に含まれており、殆

どの場合、別途インストールの必要はありませんが、Microsoft Update 等で最新のパッチ適用をお勧めします。

なお、64bit 版につきましてはご要望により公開とさせていただきます。

Excel 2010 64bit 版で動作する 64bit 版 xlXFuncx.xll をご希望の方は、サポートまでご連絡ください。

ライセンス

「Addin for Excel 95-2007」のライセンスは使用者個人に属します。

ライセンス所有者が 1 人で使用する場合に限り、1 ライセンスで複数 OS での同時使用を許可します。

ライセンス所有者の使用範囲以外についての再配布には別途許可が必要です。

いかなる理由でもプログラムの改変を禁止します。また、日本国外での使用、日本国外への輸出等を禁止します。

Free Edition ライセンスは無料です。

Basic Edition ライセンスは有料です。

Professional Edition ライセンスは有料です。

Enterprise Edition ライセンスは有料です。

製品メジャーバージョン(最初の小数点までのバージョン数値)と Edition が同一であれば、ライセンス料のお支払いは利用者 1 人につき 1 ライセンス分の金額で結構です。

アドイン登録・削除方法

xlXFuncs.xll は Excel 用のアドインです。Excel のアドインとして登録する必要があります。

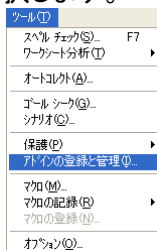
登録や削除にはアドインダイアログアドイン (またはアドインの登録と管理ダイアログ) で xlXFuncs.xll ファイルを[参照]します。

完全削除には、xlXFuncs.xll ファイルを削除したあと、登録と同じようにアドインダイアログを表示させ、"XIXFuncs"を選択することで削除できます。

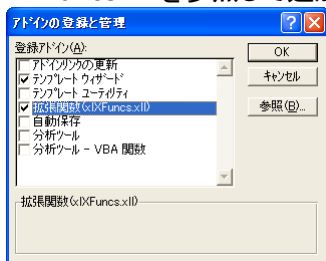
いくつかのバージョンでのアドインダイアログ表示方法と登録方法を示します。

Excel 95 の場合

メニューの[ツール]-[アドインの追加と管理]を選択します。



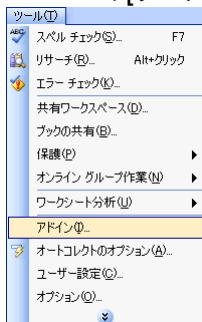
表示されるアドインの登録と管理ダイアログで xlfFuncs.xll を参照して追加します。



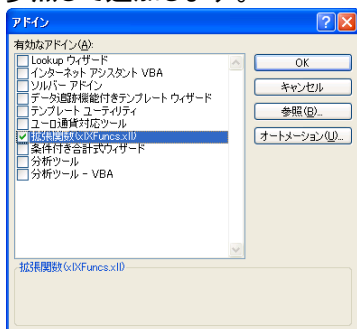
チェックを確認して OK します。

Excel 2003 の場合

メニューの[ツール]-[アドイン]を選択します。

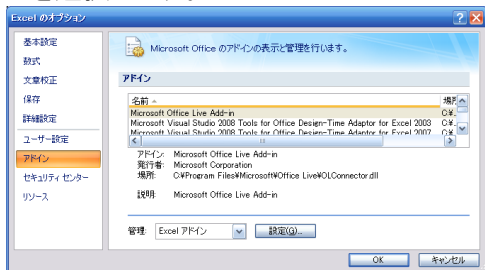



表示されるアドインダイアログで xlXFuncs.xll を参照して追加します。

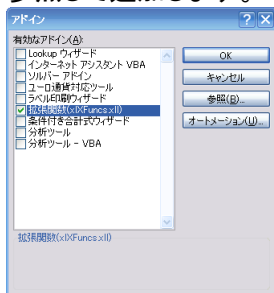


チェックを確認して OK します。

Excel 2007 の場合

[Office ボタン The image shows the 'Excel のオプション' (Excel Options) dialog box with the 'アドイン' (Add-ins) tab selected. The left sidebar contains various categories, with 'アドイン' highlighted. The main area displays a list of installed add-ins. At the bottom, the '管理' (Manage) dropdown is set to 'Excel アドイン' (Excel Add-ins), and the '設定(G)...' (Settings...) button is visible.

ダイアログ下方にある[管理]で[Excel アドイン]を選択し、[設定ボタン]を押します。
表示されるアドインダイアログで xIXFuncs.xll を参照して追加します。



チェックを確認して OK します。

関数リファレンス

xlXFuncs.xll には以下の関数が含まれます。
()内の略語は関数を提供する Edition の頭文字を示します。

分類: DIGEST

- FILE2MD2 (B, P, E)
- FILE2MD4 (B, P, E)
- FILE2MD5 (F, B, P, E)
- FILE2SHA1 (B, P, E)
- FILE2SHA224 (B, P, E)
- FILE2SHA256 (B, P, E)
- FILE2SHA384 (B, P, E)
- FILE2SHA512 (B, P, E)
- MBSTR2MD2 (B, P, E)
- MBSTR2MD2UTF8 (B, P, E)
- MBSTR2MD4 (B, P, E)
- MBSTR2MD4UTF8 (B, P, E)
- MBSTR2MD5 (F, B, P, E)
- MBSTR2MD5UTF8 (F, B, P, E)
- MBSTR2SHA1 (B, P, E)
- MBSTR2SHA1UTF8 (B, P, E)
- MBSTR2SHA224 (B, P, E)
- MBSTR2SHA224UTF8 (B, P, E)

- MBSTR2SHA256 (B, P, E)
- MBSTR2SHA256UTF8 (B, P, E)
- MBSTR2SHA384 (B, P, E)
- MBSTR2SHA384UTF8 (B, P, E)
- MBSTR2SHA512 (B, P, E)
- MBSTR2SHA512UTF8 (B, P, E)
- WCSTR2MD2 (B, P, E)
- WCSTR2MD4 (B, P, E)
- WCSTR2MD5 (F, B, P, E)
- WCSTR2SHA1 (B, P, E)
- WCSTR2SHA224 (B, P, E)
- WCSTR2SHA256 (B, P, E)
- WCSTR2SHA384 (B, P, E)
- WCSTR2SHA512 (B, P, E)

分類: HyperLong

- HLABS (B, P, E)
- HLABSC (B, P, E)
- HLADD (B, P, E)
- HLADDC (B, P, E)
- HLCOMP (B, P, E)
- HLDIV (B, P, E)
- HLDIVC (B, P, E)
- HLMLT (B, P, E)
- HLMLTC (B, P, E)

- HLPI (B, P, E)
- HLPIC (B, P, E)
- HLSQRT (B, P, E)
- HLSQRTC (B, P, E)
- HLSUB (B, P, E)
- HLSUBC (B, P, E)
- HLVALUE (B, P, E)

分類: Constant

- 利用者定義名 (P, E)

Free Edition で提供する関数

Free Edition では以下の関数を提供します。

分類: DIGEST

- FILE2MD5
- MBSTR2MD5
- MBSTR2MD5UTF8
- WCSTR2MD5

FILE2MD5

指定したファイル(フルパス指定)の内容の MD5 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

```
=FILE2MD5("C:¥AUTOEXEC.BAT")  
d41d8cd98f00b204e9800998ecf8427e
```

(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD5

指定した文字列の MD5 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類:DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか#VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数(LEN 計算できる値)分の?と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2MD5("abc")
900150983cd24fb0d6963f7d28e17f72

=MBSTR2MD5("??")
ea03fcb8c47822bce772cf6c07d0ebbb

=MBSTR2MD5("鰯")
ea03fcb8c47822bce772cf6c07d0ebbb
※単漢字「とびうお」(魚偏に飛)はサロゲートペ
ア文字なので、2 文字分の?と同じ結果になりま
す。?に置き換えずに計算したい場合は、
WCSTR2MD5 の使用をご検討ください。

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD5UTF8

指定した文字列の MD5 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

```
=MBSTR2MD5UTF8("abc")  
900150983cd24fb0d6963f7d28e17f72
```

=MBSTR2MD5UTF8("あ")
8c0c3027e3cfc3d644caab3847a505b0

=MBSTR2MD5UTF8("??")
ea03fcb8c47822bce772cf6c07d0ebbb

=MBSTR2MD5UTF8("鰯")
9d0285a186b2871b97e953126aa61fe0

[関数一覧へ](#)

WCSTR2MD5

指定した文字列の MD5 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類:DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列(Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=WCSTR2MD5("abc")

ce1473cf80c6b3fda8e3dfc006adc315

=WCSTR2MD5("?")

1fe59b4528ea6a0f5951070f6fd239a6

=WCSTR2MD5("鯉")

5f78e3296d7ebd860459526586661af8

[関数一覧へ](#)

Basic Edition で提供する関数

Basic Edition では Free Edition の全関数に加え、以下の関数を提供します。

ライセンス料支払い後に使用可能となる関数も含まれます。

分類: DIGEST

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| ・ <u>FILE2MD2</u> | ・ <u>FILE2MD4</u> |
| ・ <u>FILE2SHA1</u> | ・ <u>FILE2SHA224</u> |
| ・ <u>FILE2SHA256</u> | ・ <u>FILE2SHA384</u> |
| ・ <u>FILE2SHA512</u> | ・ <u>MBSTR2MD2</u> |
| ・ <u>MBSTR2MD2UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2MD4</u> |
| ・ <u>MBSTR2MD4UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2SHA1</u> |
| ・ <u>MBSTR2SHA1UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2SHA224</u> |
| ・ <u>MBSTR2SHA224UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2SHA256</u> |
| ・ <u>MBSTR2SHA256UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2SHA384</u> |
| ・ <u>MBSTR2SHA384UTF8</u> | ・ <u>MBSTR2SHA512</u> |
| ・ <u>MBSTR2SHA512UTF8</u> | ・ <u>WCSTR2MD2</u> |
| ・ <u>WCSTR2MD4</u> | ・ <u>WCSTR2SHA1</u> |
| ・ <u>WCSTR2SHA224</u> | ・ <u>WCSTR2SHA256</u> |
| ・ <u>WCSTR2SHA384</u> | ・ <u>WCSTR2SHA512</u> |

分類: HyperLong

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| ・ <u>HLABS</u> | ・ <u>HLABSC</u> | ・ <u>HLADD</u> |
|----------------|-----------------|----------------|

• <u>HLADDC</u>	• <u>HLCOMP</u>	• <u>HLDIV</u>
• <u>HLDIVC</u>	• <u>HLMLT</u>	• <u>HLMLTC</u>
• <u>HLPI</u>	• <u>HLPIC</u>	• <u>HLSQRT</u>
• <u>HLSQRTC</u>	• <u>HLSUB</u>	• <u>HLSUBC</u>
• <u>HLVALUE</u>		

FILE2MD2

FILE2MD5 の MD2 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の MD2 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2MD2("C:¥ AUTOEXEC.BAT")

8350e5a3e24c153df2275c9f80692773
(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD2

MBSTR2MD5 の MD2 版です。

指定した文字列の MD2 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類:DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか#VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数(LEN 計算できる値)分の?と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2MD2("abc")

da853b0d3f88d99b30283a69e6ded6bb

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD2UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の MD2 版です。

指定した文字列の MD2 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類:DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2MD2UTF8("abc")

da853b0d3f88d99b30283a69e6ded6bb

=MBSTR2MD2UTF8("あ")

90d2088df4505819455a4bec205cd7

[関数一覧へ](#)

WCSTR2MD2

WCSTR2MD5 の MD2 版です。

指定した文字列の MD2 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列 (Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=WCSTR2MD2("abc")
64bc320671ffdb9b433c36693b942852

[関数一覧へ](#)

FILE2MD4

FILE2MD5 の MD4 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の MD4 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2MD4("C:¥ AUTOEXEC.BAT")

31d6cfe0d16ae931b73c59d7e0c089c0
(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD4

MBSTR2MD5 の MD4 版です。

指定した文字列の MD4 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2MD4("abc")

a448017aaf21d8525fc10ae87aa6729d

[関数一覧へ](#)

MBSTR2MD4UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の MD4 版です。

指定した文字列の MD4 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類:DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2MD4UTF8("abc")

a448017aaf21d8525fc10ae87aa6729d

=MBSTR2MD4UTF8("あ")

3c87d21d93f8c4f0ac5c3208cb782171

[関数一覧へ](#)

WCSTR2MD4

WCSTR2MD5 の MD4 版です。

指定した文字列の MD4 ハッシュ値(32 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列 (Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

```
=WCSTR2MD4("abc")  
e0fba38268d0ec66ef1cb452d5885e53
```

[関数一覧へ](#)

FILE2SHA1

FILE2MD5 の SHA-1 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の SHA-1 ハッシュ値(40 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2SHA1("C:¥ AUTOEXEC.BAT")
da39a3ee5e6b4b0d3255bfef95601890afd80
709

(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA1

MBSTR2MD5 の SHA-1 版です。

指定した文字列の SHA-1 ハッシュ値(40 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2SHA1("abc")

a9993e364706816aba3e25717850c26c9cd0

d89d

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA1UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の SHA-1 版です。

指定した文字列の SHA-1 ハッシュ値(40 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2SHA1UTF8("abc")

a9993e364706816aba3e25717850c26c9cd0
d89d

=MBSTR2SHA1UTF8("あ")
98fdfc0a7426bbb0fca0b106fd1a6c907446d7
c0

[関数一覧へ](#)

WCSTR2SHA1

WCSTR2MD5 の SHA-1 版です。

指定した文字列の SHA-1 ハッシュ値(40 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列 (Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

```
=WCSTR2SHA1("abc")  
9f04f41a848514162050e3d68c1a7abb441dc  
2b5
```

[関数一覧へ](#)

FILE2SHA224

FILE2MD5 の SHA-224 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の SHA-224 ハッシュ値(56 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2SHA224("C:¥AUTOEXEC.BAT")
d14a028c2a3a2bc9476102bb288234c415a2
b01f828ea62ac5b3e42f
(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA224

MBSTR2MD5 の SHA-224 版です。

指定した文字列の SHA-224 ハッシュ値(56 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2SHA224("abc")

23097d223405d8228642a477bda255b32aa

dbce4bda0b3f7e36c9da7

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA224UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の SHA-224 版です。

指定した文字列の SHA-224 ハッシュ値(56 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2SHA224UTF8("abc")

23097d223405d8228642a477bda255b32aa
dbce4bda0b3f7e36c9da7

=MBSTR2SHA224UTF8("あ")
4c0ef0012736cac6acbd33c2d3f55f1b84d8b
2b4ff0c31fbd7315084

[関数一覧へ](#)

WCSTR2SHA224

WCSTR2MD5 の SHA-224 版です。

指定した文字列の SHA-224 ハッシュ値(56 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列(Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=WCSTR2SHA224("abc")
57ba76af9d4846f1e08697d79422ea3f516fe
3145ad7fc4c93ba85ac

[関数一覧へ](#)

FILE2SHA256

FILE2MD5 の SHA-256 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の SHA-256 ハッシュ値(64 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2SHA256("C:¥AUTOEXEC.BAT")
e3b0c44298fc1c149afbf4c8996fb92427ae41
e4649b934ca495991b7852b855

(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA256

MBSTR2MD5 の SHA-256 版です。

指定した文字列の SHA-256 ハッシュ値(64 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2SHA256("abc")

ba7816bf8f01cfea414140de5dae2223b0036

1a396177a9cb410ff61f20015ad

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA256UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の SHA-256 版です。

指定した文字列の SHA-256 ハッシュ値(64 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2SHA256UTF8("abc")

ba7816bf8f01cfea414140de5dae2223b0036
1a396177a9cb410ff61f20015ad

=MBSTR2SHA256UTF8("あ")
dc5a4d3d82f7e15792959dc661538ae0e541
ce66494516f5c9cfd9cd3308494d

[関数一覧へ](#)

WCSTR2SHA256

WCSTR2MD5 の SHA-256 版です。

指定した文字列の SHA-256 ハッシュ値(64 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列(Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

```
=WCSTR2SHA256("abc")  
13e228567e8249fce53337f25d7970de3bd68  
ab2653424c7b8f9fd05e33caedf
```

[関数一覧へ](#)

FILE2SHA384

FILE2MD5 の SHA-384 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の SHA-384 ハッシュ値(96 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2SHA384("C:¥AUTOEXEC.BAT")
38b060a751ac96384cd9327eb1b1e36a21fd
b71114be07434c0cc7bf63f6e1da274edebfe
76f65fbd51ad2f14898b95b
(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA384

MBSTR2MD5 の SHA-384 版です。

指定した文字列の SHA-384 ハッシュ値(96 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

=MBSTR2SHA384("abc")

cb00753f45a35e8bb5a03d699ac65007272c

32ab0eded1631a8b605a43ff5bed8086072b

a1e7cc2358baeca134c825a7

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA384UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の SHA-384 版です。

指定した文字列の SHA-384 ハッシュ値(96 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=MBSTR2SHA384UTF8("abc")

cb00753f45a35e8bb5a03d699ac65007272c
32ab0eded1631a8b605a43ff5bed8086072b
a1e7cc2358baeca134c825a7

=MBSTR2SHA384UTF8("あ")
550275cbeb094e4410f753da0d5e3f314bd27
5ae8648008819bebe81ab16e0dda3f1c12a1
0b92438488430eda32c3417

[関数一覧へ](#)

WCSTR2SHA384

WCSTR2MD5 の SHA-384 版です。

指定した文字列の SHA-384 ハッシュ値(96 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列 (Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

```
=WCSTR2SHA384("abc")  
9b7ce7c7af46e400a37c8099cb4bbb5d0408  
061dd74cdb5dac7661bed1e53724bd07f299  
e265f400802a48d2e0b2092c
```

[関数一覧へ](#)

FILE2SHA512

FILE2MD5 の SHA-512 版です。

指定したファイル(フルパス指定)の内容の SHA-512 ハッシュ値(128 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定します。

文字列をファイル名として処理します。

ファイル名を値とするセルを指定することもできます。

引数の指定が無い場合や、ファイルが見つからない場合、あるいはファイル内容の確認が不可能な場合にはエラーとなります。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

ファイル変更を検出する機能はありません。また、特別な再計算制御はありません。

読み取り時(計算実行時)の内容で計算します。

使用例

=FILE2SHA512("C:¥AUTOEXEC.BAT")
cf83e1357eefb8bdf1542850d66d8007d620e
4050b5715dc83f4a921d36ce9ce47d0d13c5
d85f2b0ff8318d2877eec2f63b931bd47417a8
1a538327af927da3e
(ファイルサイズ 0 の場合)

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA512

MBSTR2MD5 の SHA-512 版です。

指定した文字列の SHA-512 ハッシュ値(128 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をマルチバイト文字列(ANSI)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

マルチバイト文字列として認識できない文字 (Unicode 依存文字やサロゲートペア文字)が含まれる場合、対応する文字数 (LEN 計算できる値)分の ? と置き換えて計算します。

使用例

```
=MBSTR2SHA512("abc")  
ddaf35a193617abacc417349ae20413112e6f  
a4e89a97ea20a9eeee64b55d39a2192992a  
274fc1a836ba3c23a3feebbd454d4423643ce  
80e2a9ac94fa54ca49f
```

[関数一覧へ](#)

MBSTR2SHA512UTF8

MBSTR2MD5UTF8 の SHA-512 版です。

指定した文字列の SHA-512 ハッシュ値(128 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列を UTF-8 文字列に変換して計算します。文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-8 文字列変換時、データ識別 (16 進数表記で EF BB BF のデータ先頭の 3 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE!エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=WCSTR2SHA512("abc")

ddaf35a193617abacc417349ae20413112e6f
a4e89a97ea20a9eeee64b55d39a2192992a
274fc1a836ba3c23a3feebbd454d4423643ce
80e2a9ac94fa54ca49f

=MBSTR2SHA512UTF8("あ")
cbe9c72427d64f77a911940b08fb4abaf780b
ca6cdb74fd7c03b95fa2a6b39902e0fa16c22
436b27d647844793271569b8f96e03758809
dd37b02cd8be708ab6

[関数一覧へ](#)

WCSTR2SHA512

WCSTR2MD5 の SHA-512 版です。

指定した文字列の SHA-512 ハッシュ値(128 文字の 16 進数文字列)を計算するワークシート関数(分類: DIGEST)です。

引数として文字列を 1 つ指定できます。

文字列をワイドキャラクタ文字列(Unicode/UTF-16LE)に変換して計算します。

文字列や数値を含むセルを指定することもできますが、文字列としての認識は表示形式に依存します。

UTF-16LE 文字列変換時、バイトオーダーマーク(BOM: 16 進数表記で FF FE のデータ先頭の 2 バイト)はありません。

引数は、Excel 95 ～ 2003 ではバイト数 (LENB で計算できる値)が 255 を、Excel 2007, 2010 では文字数 (LEN で計算できる値)が 32,767 を超えてはいけません。制限を超える場合は、切り捨てられるか #VALUE! エラーが発生します。

引数の指定が無い場合は長さ 0 の文字列として計算します。

使用例

=WCSTR2SHA512("abc")
add8b8154df7a734d2947a981f4e61c536671
0d610040e5b54894d1006e89283cba082287
ed5dd4c25cdaa5af56d24ab9fbedc56897130
b0b5f3e50c7f9ee6df

[関数一覧へ](#)

HLADD

2つの引数の加算を十進演算します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までの文字列で返します。

循環小数等の小数点以下が長く続く場合、上記制限に基づき、四捨五入した値を返します。

返却値は指数表記に対応しません。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は #VALUE!を返します。

整数部の桁数が制限値を超えるような、返せない長さの計算結果の場合には#N/A を返します。

桁数が多い場合演算に時間が掛る場合があります。

使用例

```
=HLADD("1E10", "1E-10")  
100000000000.0000000001
```

[関数一覧へ](#)

HLADDC

HLADD 関数の Excel バージョン非依存版です。

HLADD 関数と同等の機能を提供しますが、Excel 2007, 2010 での返却値が 255 文字までになる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLADDC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

```
=HLADDC("1E10", "1E-10")  
10000000000.0000000001
```

関数一覧へ

HLSUB

2つの引数の減算を十進演算します。

(第一引数) - (第二引数)を計算します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までの文字列で返します。

循環小数等の小数点以下が長く続く場合、上記制限に基づき、四捨五入した値を返します。

返却値は指数表記に対応しません。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は

#VALUE!を返します。

整数部の桁数が制限値を超えるような、返せない長さの計算結果の場合には#N/A を返します。

桁数が多い場合演算に時間が掛る場合があります。

使用例

```
=HLSUB("1E10", "1E-10")  
9999999999.9999999999
```

[関数一覧へ](#)

HLSUBC

HLSUB 関数の Excel バージョン非依存版です。

HLSUB 関数と同等の機能を提供しますが、Excel 2007, 2010 での返却値が 255 文字までになる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLSUBC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

```
=HLSUBC("1E10", "1E-10")  
9999999999.9999999999
```

関数一覧へ

HLMLT

2つの引数の乗算を十進演算します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までの文字列で返します。

循環小数等の小数点以下が長く続く場合、上記制限に基づき、四捨五入した値を返します。

返却値は指数表記に対応しません。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は #VALUE!を返します。

整数部の桁数が制限値を超えるような、返せない長さの計算結果の場合には#N/A を返します。

桁数が多い場合演算に時間が掛る場合があります。

使用例

=HLMLT("1E10", "1E-10")

1

[関数一覧へ](#)

HLMLTC

HLMLT関数の Excel バージョン非依存版です。HLMLT 関数と同等の機能を提供しますが、Excel 2007, 2010 での返却値が 255 文字までになる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLMLTC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

=HLMLTC("1E10", "1E-10")

1

関数一覧へ

HLDIV

2つの引数の除算を十進演算します。

(第一引数) ÷ (第二引数)を計算します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までの文字列で返します。

循環小数等の小数点以下が長く続く場合、上記制限に基づき、四捨五入した値を返します。

返却値は指数表記に対応しません。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は

HLSQRT

1つの引数の開根を十進演算します。

平方根を計算します。

引数には正数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までの文字列で返します。

循環小数等の小数点以下が長く続く場合、上記制限に基づき、四捨五入した値を返します。

返却値は指数表記に対応しません。

引数が数値として読めない場合、あるいは負数の場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は

#VALUE!を返します。

整数部の桁数が制限値を超えるような、返せない長さの計算結果の場合には#N/A を返します。

一般に桁数は多くなりますので、特に Excel 2007, 2010 での演算に時間が掛ります。

使用例の計算を Core2Duo L7500(1.6GHz)で実行すると Excel 2007, 2010 の場合、30 秒ほど掛ります。

使用例

=HLSQRT("2")

Excel2007, 2010 の場合:

1.41421356 (中間略) 0248672334

Excel95~2003 の場合:

1.41421356 (中間略) 8891986096

[関数一覧へ](#)

HLSQRTC

HLSQRT 関数の Excel バージョン非依存版です。

HLSQRT 関数と同等の機能を提供しますが、Excel 2007, 2010 での返却値が 255 文字までになる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLSQRTC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また多くの場合、返却値を 255 文字までに制限することで、Excel 2007, 2010 で HLSQRT を使用した場合よりも、大幅な高速化を期待できます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

=HLSQRTC("2")

1.41421356 (中間略) 8891986096

関数一覧へ

HLCOMP

2 つの引数の数値文字列としての大小を比較します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

計算結果を、以下のとおり、数値で返します。

第1引数>第2引数のとき…1

第1引数=第2引数のとき…0

第1引数<第2引数のとき…-1

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は #VALUE!を返します。

使用例

=HLCOMP ("100.00001","100.00002")
-1

= "1"&IF(HLCOMP("1","2")=0,"=","≠")&"2"
1≠2

[関数一覧へ](#)

HLABS

引数の数値文字列の絶対値を返します。

引数には数値として読める文字列を指定します。

引数には数値を指定することもできますが、文字列での指定を推奨します。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

文字列引数の指数を除く数値中のカンマや空白を読み飛ばします。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は #VALUE!を返します。

整数部の桁数が制限値を超えるような、返せない長さの計算結果の場合には#N/A を返します。

使用例

```
=HLABS ("-999.999999999999999999")  
999.999999999999999999
```

関数一覧へ

HLABSC

HLABS 関数の Excel バージョン非依存版です。HLABS 関数と同等の機能を提供しますが、Excel 2007, 2010 での返却値が 255 文字までになる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLABSC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

```
=HLABSC ("-999.999999999999999999999999")  
999.9999999999999999999999
```

関数一覧へ

HLPI

引数はありません。

円周率を返します。

この関数には、仕様上、Excel での説明を用意
できませんので、本書をご利用ください。

円周率を、Excel 95 ～ 2003 では 255 文字、
Excel 2007, 2010 では 32,767 文字の数値文
字列で返します。

使用例

=HLPI ()

Excel2007, 2010 の場合:

3.14159265 (中間略) 5372293096

Excel95～2003 の場合:

3.14159265 (中間略) 2019091456

関数一覧へ

HLPIC

HLPI 関数の Excel バージョン非依存版です。
HLPI 関数と同等の機能を提供しますが、
Excel2007, 2010 での返却値が 255 文字になる違いがあります。

返却値を 255 文字までに制限することで、入力値が同一であれば、Excel バージョンに依存せず、同じ結果を返します。

たとえば、Excel 95 で HLPIC を使用した計算を、Excel 2007, 2010 で実行しても同じ結果を得ることができます。

また、255 文字までの数値文字列は、Excel に用意される VALUE 関数の引数とすることができ、容易に数値化することが可能です。

使用例

=HLPIC ()

3.14159265 (中間略) 2019091456

関数一覧へ

HLVALUE

引数の数値文字列を数値化します。

Excel 標準の VALUE 関数と同等ですが、Excel2007, 2010 での引数に 32,767 文字まで指定できる点が異なります。

文字列引数の最大長はそれぞれ、Excel 95 ~ 2003 では 255 文字まで、Excel 2007, 2010 では 32,767 文字までとなります。

文字列引数には指数表記として、E±9999 まで指定できます。指数部は整数のみです。

結果を数値で返します。

引数が数値として読めない場合、#NUM!を返します。

引数の指数指定が E±9999 を超える場合は #VALUE!を返します。

その他のエラーは Excel 標準の VALUE 関数に準拠します。

使用例

=HLVALUE (HLPI())

3.14159265358979

※数値になります。

関数一覧へ

Professional Edition および Enterprise Edition で提供する関数

Professional Edition および Enterprise Edition
では Basic Edition の全関数に加え、以下の関
数を提供します。

ライセンス料支払い(P, E)後に使用可能となる
関数も含まれます。

分類: Constant

・利用者定義名

利用者定義名

分類: Constant の関数は利用者により定義された定数を返します。

定義方法は Professional Edition および Enterprise Edition に同梱の別ファイル Constant.pdf をご覧ください。

定数は複数の要素からなる配列として定義でき、引数には要素番号(0 以上の整数)を指定できます。

引数を数値型で指定すると、要素番号に一致する要素の値(または、既定値(定義に依存))を数値として返します。

引数を文字列型で指定すると、要素番号に一致する要素の値(または、既定値(定義に依存))を文字列として返します。

引数省略時は既定値(定義に依存)を数値として返します。

空セル参照時は既定値(定義に依存)を文字列として返します。

整数以外の数値を引数にした場合も、それに近い値の整数とみなしますが、動作保証しません。

数値型、文字列型、引数省略、空セル参照以外の型(論理型等)を引数とした場合、#VALUE!エラーを返します。

文字列型引数指定時や数値返却時に数値化できない場合には、それぞれ HLVALUE 関数 同様のエラーを返します。

関数名 1 つを 1 関数とし、Professional Edition では最大 4096 関数、Enterprise Edition では最大 8192 関数を定義し利用できます。

ただし、現バージョンでは、多量の関数を定義する場合、Excel 起動時の処理が多くなり、使用できる状態になるまでの時間が長くなります。

[関数一覧へ](#)

その他

署名が無いことによる警告が出る場合があります。その際は、適宜有効化をお願いいたします。

Edition の確認は、xlXFuncs.xll ファイルのプロパティからバージョン情報詳細のコメントや製品名をご覧ください。

本製品の使用による損害は責任を負いかねますのでご了承ください。

修正・改版履歴 (Ver0 系)

Ver0.5 (2009/09/30)

- ・ Free Edition Ver0.5 新規

Ver0.6 (2009/10/07)

- ・ FILE2MD5 と WCSTR2MD5 において、Excel 2003 以前で引数が 128 バイト以上のとき、例外が発生する件の修正
- ・ Basic Edition 追加

Ver0.7 (2010/02/12)

- ・ HyperLong 系関数 (HLADD, HLSUB, HLMLT, HLDIV)を追加
- ・ 内部変数初期化漏れによるメモリリーク・メモリ破壊・Excel 異常終了発生のを修正

Ver0.7.1 (2010/04/02)

- ・ HyperLong 系関数 (HLADDC, HLSUBC,

HLMLTC, HLDIVC, HLSQRT, HLSQRTC, HLCOMP)を追加

- ・ 既存 HyperLong 系関数を高速化

Ver0.7.2 (2010/07/15)

- ・ 開発環境を Visual Studio 2010 へ移行
- ・ 内部中間層とその他の変更(コード量削減)
- ・ DIGEST 系関数(MD2 系、MD4 系)を追加
- ・ HyperLong 系関数(HLPI, HLPIC, HLABS, HLABSC, HLVALUE)を追加

Ver0.8.0 (2010/10/15)

- ・ Professional Edition と Enterprise Edition を追加
- ・ Constant 系関数を追加

Ver0.8.1 (2010/11/11)

- ・ DIGEST 系関数 MBSTR2*UTF8 を追加
- ・ ガイド&リファレンス追加・修正

ご意見・ご要望・不具合報告等はサポート

<http://support.fne.jp/software/addinexcel.html>

で受け付けます。

ライセンス料は Vector 様シェアレジにてお支払いください。

Basic Edition:

<https://sw.vector.co.jp/swreg/detail.info?srno=SR194641>

Professional Edition:

<https://sw.vector.co.jp/swreg/detail.info?srno=SR231020>

Enterprise Edition:

<https://sw.vector.co.jp/swreg/detail.info?srno=SR231021>

本書および「Addin for Excel 95-2007」に含まれるすべてのファイル(xlXFuncs.xll を含む)の著作はふうみんにあります。

Windows, Excel その他の固有名称のほとんどは米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。